

- 地理空間情報に関する情報発信を強化する観点から、X（旧Twitter）のアカウントを作成しました
- 国土数値情報の整備予定や、整備を進めている不動産情報ライブラリ、人流に関するイベントなどの情報をタイムリーにお届けします
- 是非フォローやリポストをお願いします

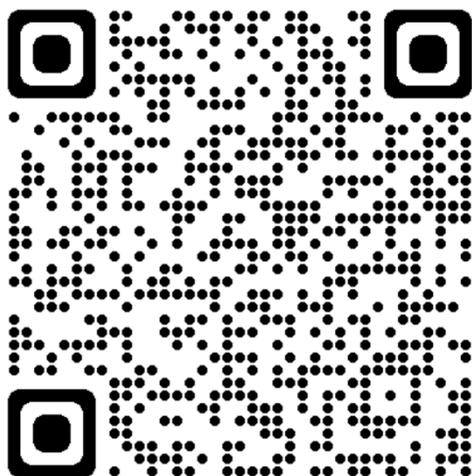
【情報活用推進課アカウント】

・アカウント名：【公式】国土交通省 政策統括官付 情報活用推進課

・ユーザー名：@GIS_MLIT

・URL：https://twitter.com/GIS_MLIT

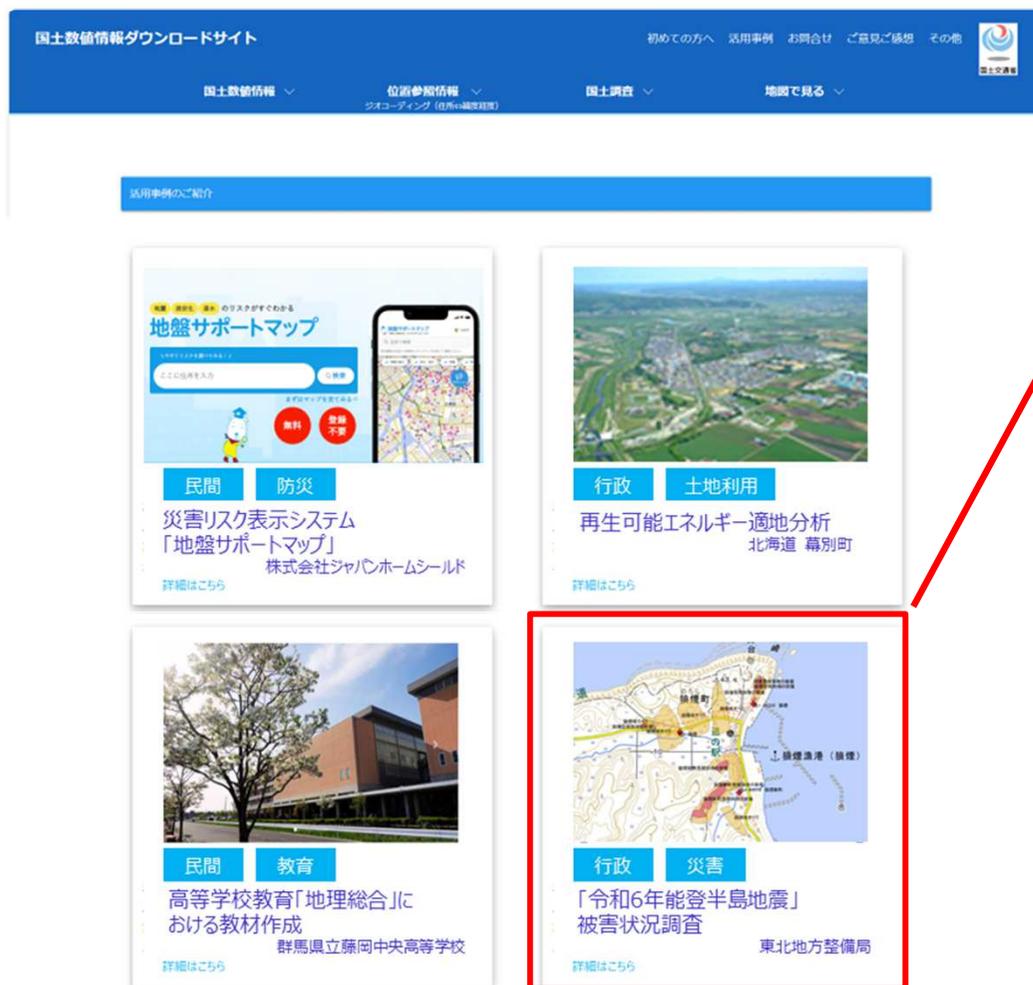
・QR



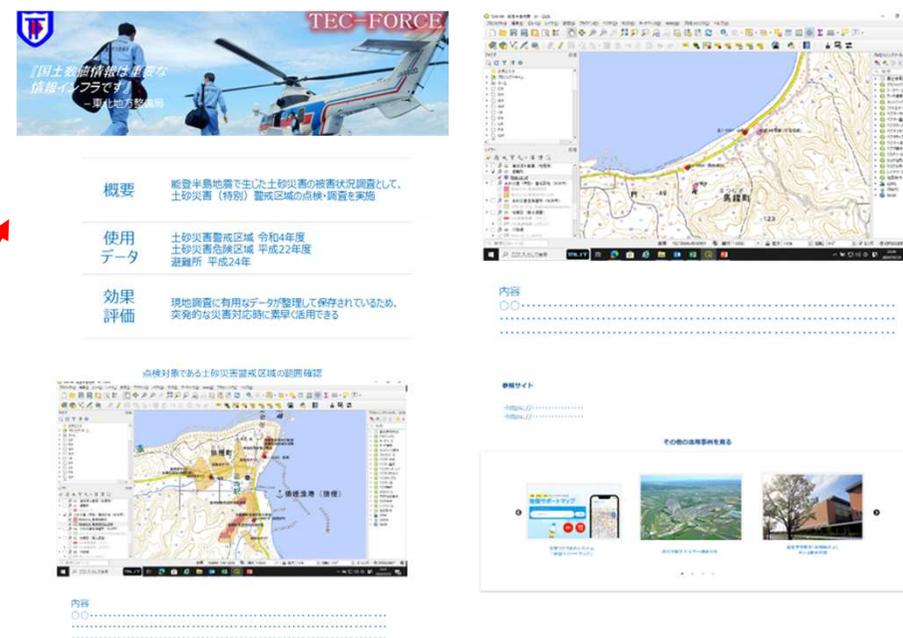
- 国土数値情報の活用事例を紹介する専用ページをダウンロードサイト内に作成中
- 令和6年4月頃に公開を予定

■ 国土数値情報ダウンロードサイトでの活用事例の紹介画面イメージ

〈 一覧画面のイメージ 〉



〈 詳細ページ 〉



※上記画面はイメージです。

○ 国土数値情報の検索性を向上させるために、令和6年度4月以降、「e-GOVデータポータル」への登録と「メタデータの充実」を図る

【e-GOVデータポータルへの登録】

- ・e-GOVデータポータルからも国土数値情報へのアクセスを可能とし、検索性を高める

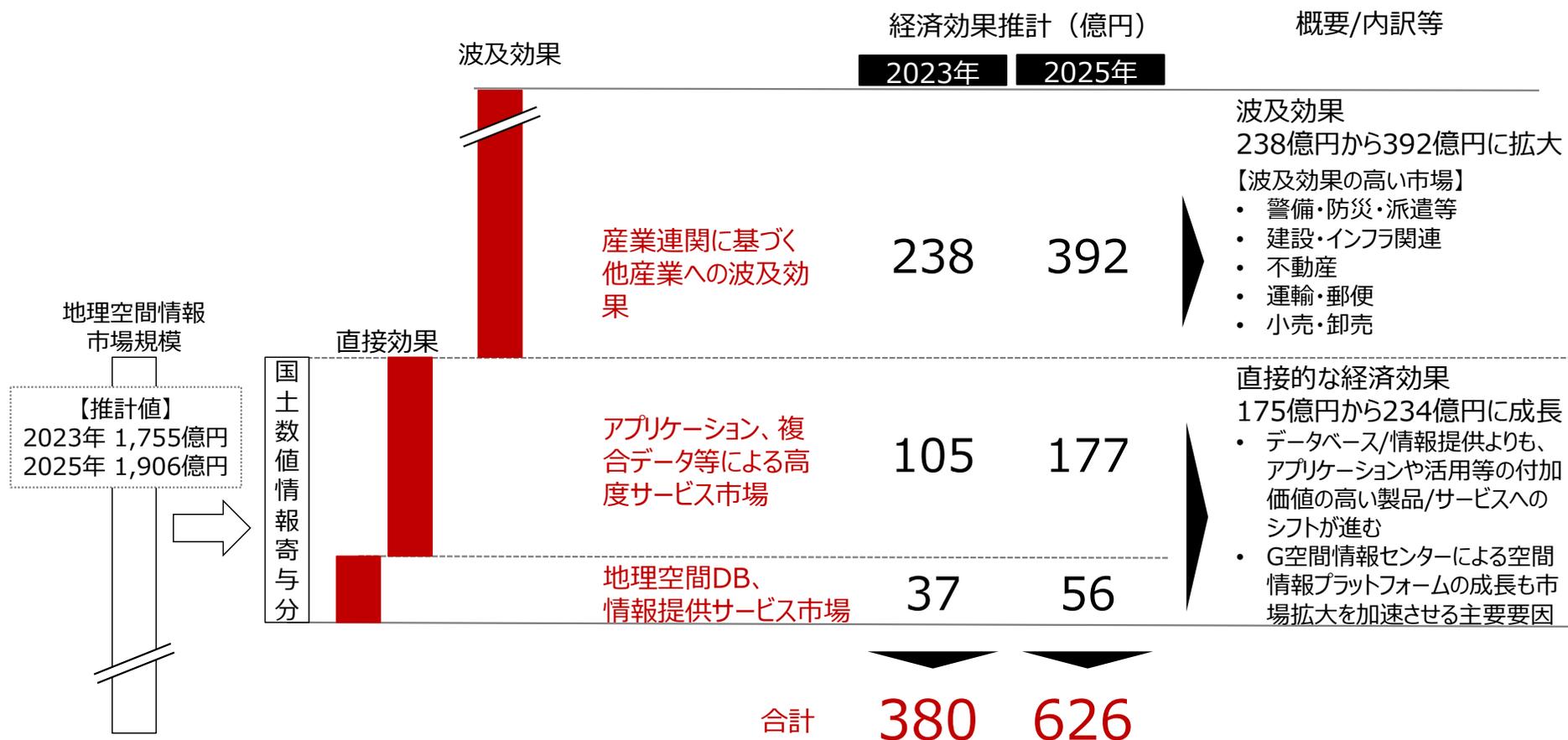


【メタデータの充実】

- ・現状ではダウンロードしたZIPファイルの中にメタデータが格納されている状態だが、ダウンロードサイト内でメタデータの検索ができるようにメタデータファイルを単体で公開し、検索性を高める



- PwCコンサルティングでは本年、**国土数値情報の経済効果**を試算している。
(G空間情報センターで2025年に国内のGISデータの90%のデータが取得可能と仮定した上で、国土数値情報のデータセット数を比較し、市場規模を按分する形で直接効果を、産業連関表で間接効果を試算)
- 国土数値情報は、少なくとも**2023年段階で直接効果142億円、波及効果含めて380億円**の経済効果を創出しており、市場成長とG空間情報センターによるデータ流通促進効果により、2025年では626億円の経済効果が見込まれるとされている。
- 国土数値情報の整備事業費（毎年2億円程度）と比較すると、**非常に高い付加価値を生んでいる**といえる。
- ただし、市場にはG空間情報センターに直接関係しない地理空間情報も多数存在していると考えられ、本試算は限定的。



(出所) 矢野経済研究所「位置・地図情報関連市場に関する調査」(2023)、「位置情報/地図情報活用ビジネス市場」(2016)、G空間情報センター中期運営計画2022、総務省平成27年(2015年)産業連関表(統合大分類(37部門)等、をもとに作成